

健康と光線

極めて難治な慢性痛

今年の1月1日に発行した本紙に、川口一憲先生の複合性局所疼痛症候群・CRPS (Complex regional pain syndrome) の治験例を掲載させて頂きました。

痛みは臨床的に最も多い訴えですが、殆どの場合、侵害受容器―神経伝導路―中枢の経路のどこかの侵害刺激が脳皮質の感覚野に伝えられて痛みとして知覚するため、痛みは病変を知らせる警告信号として捉えられています。しかしその一方で、組織の傷害は治癒しているにも関わらず、長期にわたり激しい苦痛を強いる極めて難治な慢性痛があり、薬の効果もあり期待できないことが知られています。

この慢性痛の病態については未だ不明な点が多々ありますが、

統一した用語もなかったため、1986年に国際疼痛学会の分類用語委員会は、慢性痛という痛みの症状のみに着目して、複合性局所疼痛症候群・CRPSと呼ぶことを提唱し、神経損傷がないのをCRPS Type I、神経損傷と関連するのをCRPS Type IIとすると定義したのです。

統一した用語もなかったため、1986年に国際疼痛学会の分類用語委員会は、慢性痛という痛みの症状のみに着目して、複合性局所疼痛症候群・CRPSと呼ぶことを提唱し、神経損傷がないのをCRPS Type I、神経損傷と関連するのをCRPS Type IIとすると定義したのです。

痛みの悪循環

川口先生の治験例は、5年前の右足首の捻挫がきっかけで、両足首に障害が出ています。このようなケースをミラーイメージ型と呼びますが、慢性痛は固定し完成していますのでCRPS Type IIに該当します。

サナモア光線療法による慢性痛の治療

―複合性局所疼痛症候群・CRPS―

サナモア光線協会 サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

なお医師から完治の可能性は極めて低いと告げられたのは、有効な治療法が知られていないためです。

痛みの悪循環を断つ

慢性化し難治性となる痛みの悪循環が成立するとしたのです。しかしこの交感神経が関与する痛みの悪循環説は痛みの一部を説明する説であって、外に痛みの中枢性感作、すなわち中枢神経系の侵害受容ニューロン(神経単位)の過敏化が痛みの悪循環に関わるという有力な説があり、研究課題とされています。

痛みの悪循環を断つ

痛みの悪循環を断つ第一歩は即効性の鎮痛です。川口先生は整体治療で患部をほぐし、血流を促してから、サナモアを併用して治療をされています。サナモアの深部温熱作用には、患部の筋肉を弛緩し、血行を促して虚血状態を改善し、酸素や栄養分を補給し、発痛物質の吸収、排泄を促す作用がありますから、即効性の鎮痛効果が期待できます。加えて治療で求められる真の目標は、痛みの悪循環を解消して

病態を説明する仮説に、リビングストンが唱えた痛みの悪循環説があります。リビングストンは慢性痛の部位では交感神経が緊張しており、血流が阻害されて虚血を起こし、酸素や栄養分の供給がとどいて欠乏するため、組織障害を起こして、発痛物質を分泌、遊離し、痛みは

症状が持続的に消失するように導き、ADL(日常生活動作)に支障がないようにすることです。この治療に至る過程で大きく関係するのが自己治療力(自然治療力)であり、この治療力を向上させるのは血流によって運ばれるエネルギーにあります。すなわち痛みの悪循環を断つ治療で最も求められるのは、患部の血液循環を繰り返して根気よく改善することです。

川口先生の治験例は、鎮痛剤を止めるまで1年、ゴルフが出来るまで1年8ヶ月かかっています。この間、患者さんには迷いもあったと思いますが、治療を継続、反復して下さった加算効果で、自己に備わった修復能力が働き治療機転を促したと考え、間違いありません。

夏季臨時休業のお知らせ
八月十三日(木)から十六日(日)まで夏季臨時休業致しますので、よろしくお願い申し上げます。

(株)東京光線療法研究所
サナモア光線治療院

発行所
〒153-0063
東京都目黒区目黒
4-6-18
サナモア光線協会
年4回発行
会費年500円
電話 東京(03)
3793-5281
3712-5322

一病息災 一病息災

糖尿病の合併症

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

病気の解説

糖尿病はインスリンが不足したり、インスリンの働きが悪くなることで、血糖値の高い状態が慢性的に続く病気で、様々な合併症を引き起こします。血糖値は、血液中に含まれるブドウ糖の濃度のことですが、ブドウ糖は、米やパンなどの炭水化物が消化されて血液中に取り込まれます。この際、余分なブドウ

糖は、肝臓においてグリコーゲンとして貯蔵されたり、中性脂肪の形で脂肪組織に蓄えられ、血液中のブドウ糖が不足した時に、再びブドウ糖として供給されるような仕組みになっていますが、この一連の糖代謝に関わる重要なホルモンがインスリンです。インスリンは膵臓のランゲルハンス島B細胞から分泌され、全身のほぼ全ての臓器細胞にブドウ糖を取り込ませ、肝臓

症 例：33歳、男性。

主 訴：両側下腿側面の潰瘍。両側下肢の電撃痛。

起始・経過：17歳で発症した1型糖尿病。以来、インスリン自己注射を行ってきたが、血糖コントロールは良好でなく、数年前から、下肢にしびれと痛みを自覚。最近、下腿の虫刺されを掻き壊してしまい、潰瘍を形成したため、使用経験のあるサナモアで治したいと来院。

治 療：側臥位にて全身照射30分。腹部(BD)、背部(BD)、膝(AB)、足裏(AB)。仰臥位にて両側下腿(AB)20分。

経 過：潰瘍部位では、サナモア照射により、多量の浸出液分泌が見られていたが、3回の治療後から潰瘍の面積は縮小傾向となり、10回の治療でほぼ軽快。また下肢の電撃痛に関しては、10回の治療後から徐々に和らいでいる。

でグリコーゲン合成を促進することによって、血糖値を下げる方向に働きます。

糖尿病による合併症は、ほとんどが血管に起きた障害によってもたらされます。過剰なブドウ糖はタンパク質を糖化しますが、糖化されたタンパク質は機能が低下するだけでなく、変質したタンパク質(終末糖化産物)となり、組織にたまって、様々な障害を引き起します。こうした終末糖化産物が、血管壁に作用すると動脈硬化が進行することになるのです。

長期に持続した高血糖によって、血管が傷めつけられ、次いで臓器が傷めつけられるため、その影響は全身に及びますが、太い血管の障害で起こる代表的な疾患が、心筋梗塞や脳梗塞で、細い血管の障害で起こる疾患が、三大合併症と言われる網膜症、腎症、神経障害です。最近の報告では、毎年、5000人以上が糖尿病性網膜症で失明し、年間約15000人が腎不

全に陥り、血液透析に導入されており、予防することが重要な課題となっています

病気と光線療法

食生活の欧米化や運動不足により、糖尿病の患者は確実に増えており、合併症で苦しんでいる方もたくさんいます。もちろん、食生活を含めた生活習慣の改善を抜きにして糖尿病の治療は考えられませんが、サナモア光線療法は、糖尿病の治療だけでなく、合併症の治療に至るまで有効です。皮膚で産生されたビタミンDは、膵臓に作用してインスリンの分泌を促す作用を有しており、これにより、血糖値の改善を認めます。また、血管障害に起因する合併症の多くは、血液循環の停滞により、病態を悪化させますので、サナモア光線療法で、局所の血液循環を改善することが、合併症治療に大いに期待されるのです。

サ/ナ/モ/ア/便/り



vol.38

宇都宮 正範

第十四期 サナモア光線治療師 養成講座のお知らせ

既にお知らせしましたように、第十四期サナモア光線治療師養成講座を東京にて開講します。昨年度の参加者八名を加え、これまで養成した治療師は百名を

開 講 日 程

7月2日(木)・3日(金)・4日(土)

講 座 内 容

- (1)医学総論・関係法規
- (2)サナモア光線療法の基礎と生物学的作用
- (3)光線治療器のメンテナンス法
- (4)ループ式・マルチアーク療法の実践
- (5)開院のための準備

資格取得者の特典

- (1)治療院を開業する際の指導
- (2)サナモアの名称使用
- (3)サナモア販売における代理店資格の取得
- (4)季刊紙「健康と光線」への治験例報告

超えましたが、サナモア光線療法のさらなる普及の一環として行う予定です。



世間では、ここ数か月、新型インフルエンザの流行が大きな関心事となっていますが、空港での検疫、休校、イベントの中止などで、ウィルスの蔓延を防ぐとする人間の努力を、まるであざ笑うかのように、ウイル

スは広がりを見せていました。ただウィルスが弱毒性であったため、致死率がそれほど高くないことが救いと言えます。このような事態を目の当たりにして、宿主(人)の免疫力の重要性を改めて感じさせられるとともに、このような時代だからこそ、サナモア光線療法のような免疫力を高める治療法が必要なのではないかと思えます。

まだまだ、マスコミなどでは、

いわれなき紫外線バッシングが続いていますが、サナモア光線療法に対する正しい知識を身に付けた人を一人でも多く育てることが、治療師養成講座を開催する意義であり、この機会に、光線治療院の開業を検討されている方、あるいはサナモア光線療法について勉強したいとお考えの方は、サナモア光線治療院(〇三―五七五九―三七一〇)まで、お問い合わせの程お願い申し上げます。

◆ 募 集 ◆

サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

〒153-0063

東京都目黒区目黒 1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720

第三十回
「光と熱研究会」
のお知らせ

医療に関連した話題の講演や治験例の報告を中心とした研究会を開催していますので、一般のご愛用者の方も是非ご参加下さい。なお参加は無料です。

日 時：十月二十四日(土)
午後二時三〇分

場 所：サナモア光線治療院
三階会議室

治療例報告

サナモアで突発性難聴を治療

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL078-331-3358

症例 45歳 男性 公務員

症状 仕事が忙しく、残業が三週間程続いた朝、突然、右耳の聞こえが悪いことに気がつき、近医耳鼻科を受診。診察の結果、突発性難聴と診断され、二種類の薬の他、ビタミン剤を処方され様子を見るように説明された。しかし、会社の先輩に事情を話したところ、過去に突発性難聴をサナモア光線療法で治した経験があるからと、強くサナモアを勧められ来所した。

しては、同様の方法にて、カーボンはBDやABの組み合わせの他に、ADの組み合わせで、一旦二回以上の照射を指示した。

治療開始四日目頃から、徐々に、それまで感じていた耳鳴が消失し、隣の部屋の話し声が聞き取れるまでに改善。さらに一週間が過ぎた頃、会話中に、相手に聞き返すことが全くなくなり、ほとんど、以前のレベルにまで回復したと自覚できるようになった。現在も、照射時間は減ったものの、サナモアを続けており、再発はみられていない。

治療例報告

変形性股関節症術後の痛みが

サナモアで軽快

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子(旧姓前田)氏報告

TEL092-581-2039
五七二一五七三

症例 45歳 女性

症状 長年、変形性股関節症を患っており、最近、右股関節を人工関節に置換する手術を受けた。しかし、術後、なかなか痛みがひかず、悩んでいたところ、知人にサナモア光線療法を紹介されて来所した。

療法経過 当初、人工関節に置換した股関節に、サナモアを照射していいのか心配されていたので、全く問題ないことを十分に説明し理解してもらってから、治療器を購入、自宅での治療を開始した。治療には、最初、A

Aカーボンを使用。足裏、足関節、膝、腰部を各15分照射後、股関節を20分から30分、腹部を10分照射。しばらく続け、身体が光線療法に慣れてきた時点で、BCカーボンに変更し、照射時間も少しずつ長くした。特に、股関節に対しては、痛みが和らぐまで照射するように説明。数日後の電話報告では、痛みがなかなか改善しないとのことであったため、基本的には、BCカーボンでよいが、痛みが強い時には、BとBCを使い分けることを指示した。

それは、それから数か月後には、股関節の痛みは完全に消失し、通常の日常生活ができるまで改善したと喜ばれていたため、関節の痛みは再発しやすいから、今後、毎日10分、股関節だけでも照射を続けること、対側の股関節も照射するように話した。

全自動光線治療器

はつらつさんと

ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてききました。この点を改良したのが全

自動光線治療器はつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、カーボンの消耗に合わせてジョイントで使えるサナモアカーボンをつないでおけば、自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

*

なおはつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。

治験例報告

多彩な不定愁訴をもつ

患者に対するサナモアの効果

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL 044-731-5067

症例 33歳 主婦

症状 平成18年1月に病院より紹介されて来所。病院で行った検査では、明らかな内臓疾患は否定されていたが、頭痛、集中力の低下、舌下部の痛み、全身の冷感、腹部の違和感などを訴えていた。

療法経過 治療には四台の治療器を用い、AA、AB、BDカーボンを患者の状態に合わせて使用した。最初、側臥位にて、顔面、腰部、臀部、膝を10分照射。次に、後頭部10分、上腹部(胃)30分(集光器を使用)、下腹部10分、足裏30分の照射を行った。次に仰臥位として、左頸部(甲状腺)、右側腹部、左膝側面を

10分照射。さらに、右頸部(甲状腺)、左側腹部、右膝側面10分の照射を施行した。

治療開始後しばらくして、体調は改善傾向となり、患者自身もこの治療で希望が持てると思っていた。その後、自宅での光線治療を続けているが、徐々に快方に向かっており、病院の検査でも異常なく、サナモア光線療法による体質改善効果を認めることができた。

治験例報告

サナモアで手根管症候群による

しびれと痛みが消失

武蔵野市 カワグチ光線整体療法院

川口 一憲氏報告

TEL 042-313-3990

症例 59歳 女性
症状 5年前に手指のしびれと痛み、肘痛を認めたため、近医を受診したところ、手根管症候群と診断された。しばらく症状に変化がなかったが、約三年前から、痛みとしびれが緩和される代わりに、手技動作(字を書く

く、りんごの皮むき)が極めて不自由となった。その頃、自然治癒力を推奨する当院を知り、来所した。
療法経過 平成19年12月から週に一回の治療を開始。最初、硬くなった上肢を中心に身体全体を45分揉みほぐし、血液循環を

サナモアカーボンの

類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持てませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

(株) 東京光線療法研究所

高めてから、サナモア光線療法を施行。仰臥位としBDカーボンで、右上肢と腹部、左上肢と腹部をそれぞれ30分照射後、側臥位にて、腹部(BD)、腰部(BD)、膝(AB)、足裏(AB)を40分照射した。

治療開始してから一年が経過し、サナモアの効果に疑問を持たず、サナモアの効果を認めている。

ち始めた頃、自分の身体の内面から起こる変化を感じ、「30年

来の冷え性が改善し、手指の動きが軽くなっている。」と口に出された。そこで、今以上の改善のためには、治療頻度を増やすか、在宅治療を併用する必要

サナモア 光線療法 愛用者の声



急性胃腸炎と带状疱疹を
サナモアで治しました

神戸市 相良 陽子様

つい最近のことですが、71歳の妹が旅行から帰宅と同時に、微熱、腹痛、下痢、嘔気、嘔吐、食欲低下などの消化器症状を訴えたので、すぐに、サナモア光線療法を行ったところ、あっという間に症状は軽快しました。しかし、その後、右側胸部にピリピリした痛みが走り、眠れないうというので見ると、発疹が出ていて、これはすぐに带状疱疹

と思い、約二週間、毎日サナモアを照射しました。患部はBCカーボンで、基本照射にはABカーボンを利用しましたが、医師の診察を受けることもなく完治しました。

この時、毎年悩まされていた花粉症の症状も一緒に緩和されていたことには驚きました。何はともあれ、サナモア光線療法の有り難さを、今さらの如く、感謝する日々です。本当にありがとうございました。

私の不思議な

傷の体験です

東京都 山口 房子様

私のことですが、一か月以上前から、右耳の上の付け根付近に傷があり、水浸出液が出ていて、薬をつけても、光線をかけても、なんとしても治らず、痛い、痛い、触ると激痛でした。この耳の傷はどうしたものかと長時間サナモアをかけていたら、傷口からじわじわと水(浸出液)が出てくるのです。ティッ

シュで押さえていましたが、耳の後ろの方まで濡れました。そして今日再度サナモアをかけたところ、今度はもう水浸出液は出てこず、傷口にはかさぶたが作られていて、耳を押しても引っぱっても痛みを感じませんでした。

一か月以上、耳の傷は居座り続けましたが、今日ようやく、痛みから開放されました。これが私の不思議な傷の体験です。医師にも相談せず、原始的なサナモア頼みの生活をおくっています。

サナモア体験記募集

サナモアの効果は体験しないと信じられないところがありますが、実際に効果を体験した体験記ほど説得力のあるものはありません。ついでに体験記をお送りくださいますよう、お願いいたします。

なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行、二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-16-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三―五二八― 三七二―五三三―

(本紙の無断転用を禁止します。)